

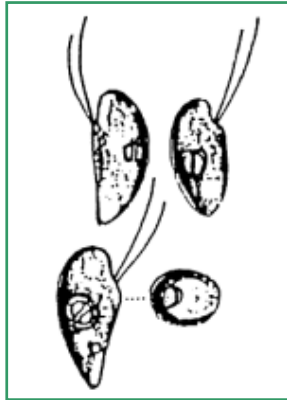
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第2報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成15年4月14日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

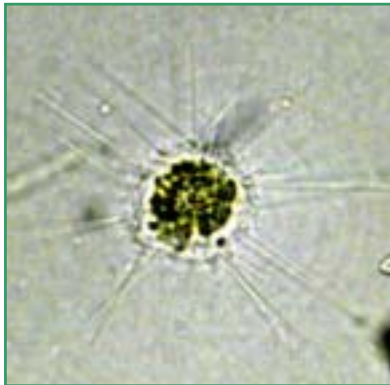
植物プランクトン第1優占種



*Rhodomonas* sp.  
(ロードモナス)  
褐色鞭毛藻綱

細胞は、長楕円形で長さが約10 μmと小型であり、葉緑体は少し赤みを帯びている。  
2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Raphidocystis* sp.  
(ラフィドキスティス)  
太陽虫類

細胞は球形で多数の仮足が放射状に出ている。仮足の中心の軸糸は細胞内の中心粒で終わっている。細胞は粘質物に覆われていて、粘質物の中に多数の骨片がある。

コメント

キクロテラ グロメラータは前回と同程度の細胞数であったが、ロードモナスが多くなった。淡水赤潮の原因となるウログレナは、昨年この時期には出現していたが、今回の調査では見られなかった。動物プランクトンは、先週に引き続き太陽虫のラフィドキスティスが最も多かった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Raphidocystis</i> sp.	370

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	350

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当

(2) 植物プランクトン

平成15年4月14日

第2報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Dinobryon bavaricum</i>	33		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion conicum</i>	20		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion gallicum</i>	10		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	70		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	60		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	20		
(黄鞭) <i>Pseudopedinella</i> sp.	50		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	350		
(珪) <i>Rhizosolenia longiseta</i>	20		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	290		
(珪) <i>Synedra acus</i>	20		
(珪) <i>Cocconeis</i> sp.	10		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	180		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	460		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	120		
(緑) <i>Dictyosphaerium subsolitarium</i>	80		
(緑) <i>Ankistrodesmus falcatus</i> var. <i>mirabile</i>	10		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	263	14.3	17.2
(珪) 珪藻綱	730	39.6	34.6
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	640	34.7	42.8
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	210	11.4	5.5
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1843	総体積	8.99E+05
種類数	20	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。